

【ポスター発表】

地域包括ケアを推進に向けた医療と介護の連携の課題
—退院支援におけるチームケア機能の職種・所属別の分析結果から—

釧路町役場 竹田 匡 (007851)

松岡千代 (佛敎大学・002958)

キーワード3つ：地域包括ケア、多職種連携、チームケア機能

1. 研究目的

厚生労働省は 2025 年を目途に地域の包括的な支援・サービス提供体制として地域包括ケアの構築を目指しており、その中で医療と介護の連携が重要であることを指摘している。

筆者らは、2009 年から在宅医療・介護の連携に重点をおき、多職種が参加する退院支援の仕組み作りに取り組んできた。本研究は、退院支援における多職種チームケアに着目し、メンバーの職種、所属による「多職種チームケア機能」の相違を明らかにし、今後の課題を探索することを目的として質問紙調査を実施した。

2. 研究方法

1) 質問紙の内容：基本的属性に加えて、「多職種チームケア機能」に関する質問項目は、松岡(2000)の先行研究における「多職種チームワーク機能尺度」の質問項目から 22 項目（「6.非常によくできている」～「1.全くできていない」で回答）を選定した。

2) 調査方法：本調査は北海道 X 市と Y 町内に所在する医療機関、地域包括支援センター及び介護保険事業者に勤務する保健医療福祉専門職 1,310 人を対象とした。質問紙調査の方法は留め置き法とし、調査期間は、2013 年 9 月から 11 月であった。

3) 分析方法：「多職種チームケア機能」項目に関しては、探索的因子分析を行って因子構造を検討し、その結果によって得られた下位因子をサブスケールとした。次に、各サブスケールを従属変数とし、対象者の職種、所属を要因として一元配置分散分析（以下「ANOVA」という。）を行い、その後、各職種の群間の差を検討するために多重比較（Tukey 法）を行った。なお、有意水準は、5%とした。

3. 倫理的配慮

質問紙への回答は無記名とし、その表紙に研究の主旨と内容、回答にあたってのプライバシーは守られること、回答をするか否かは自由意思であることを明記した。研究協力への同意は、調査票への回答をもって得られたこととした。

4. 結果

回収された回答数は 861 であり、有効回答数は 615、有効回答率は 46.9%であった。

1) 基本的属性：回答者の性別は男性が 98 人(16.0%)、女性は 514 人(84.0%)、平均年齢は 38.6 ± 10.1 歳であった。職種は看護師 390 人(63.4%)、介護支援専門員 110 人(17.9%)、准看護師 35 人(5.7%)、作業療法士 20 人(3.3%)、理学療法士と社会福祉士は 14 人(2.3%)

等であった。所属機関については医療機関 460 人(76.8%)、居宅介護支援事業所 83 人(13.5%)、地域包括支援センター33 人(5.4%)、訪問看護 31 人(5.0%)、訪問リハビリ 5 人(0.8%)等であった。また医療機関に所属する人の職種の 87%は、看護職(保健師・看護師・准看護師)であった。

2)「多職種チームケア」尺度の因子構造の検討:「多職種チームケア機能」の 22 項目について、探索的因子分析(主因子法、プロマックス回転)を行って検討した。分析の過程で 6 項目が削除され、最終的に 16 項目 4 因子(「タスク機能」「メンテナンス機能」「リーダーシップ」「組織的サポート」)からなる尺度が構成された(Cronbach $\alpha = .921$)。

3)「多職種チームケア機能」「チームケア態度」の職種・所属別分析結果

(1)「職種」別分析結果:「職種」(水準 4:「看護職」「リハビリ職」「社会福祉職」「ケアマネ」)を要因とした ANOVA の結果、「リーダーシップ」($F=3.594, p=.014$)と「組織サポート」($F=9.054, p=.000$)において職種間の差が認められた。「リーダーシップ」では「ケアマネ」(15.1)と「リハビリ職」(14.7)の間に、「組織的サポート」に関しては「看護職」(12.2)と「社会福祉職」(13.9)・「ケアマネ」(13.4)の間に有意な差が認められた。

(2)「所属」別分析結果:「所属」(水準 3:「医療機関」「地域包括・居宅介護」「訪問看護・リハ」)を要因とした ANOVA の結果、「タスク機能」($F=4.934, p=.007$)と「組織的サポート」($F=21.082, p=.000$)において所属間の差が認められた。「タスク機能」では「訪問看護・リハ」(16.5)と「医療機関」(15.0)・「地域包括・居宅介護」(15.0)との間に、「組織的サポート」では「医療機関」(12.1)と「地域包括・居宅介護」(13.4)・「訪問看護・リハ」(14.2)との間に有意な差が認められた。

5. 考察

「タスク機能」では、所属の「訪問看護・リハ」が高い傾向にあり、職種での差は認められず、「リーダーシップ」では、職種の「ケアマネ」が高い傾向が示された。しかしこのことは、「タスク機能」において「ケアマネ」「社会福祉職」や「地域包括・居宅介護」、また「リーダーシップ」では「社会福祉職」や「地域包括・居宅介護」という地域包括ケアを先導することが期待される「職種」や「所属」が十分にその機能を発揮していない可能性が示唆された。

また「組織的サポート」については、職種では「看護職」、所属では「医療機関」が低い傾向にあった。「医療機関」において最も多かった職種が「看護職」であったことを考えると、医療機関に所属する看護職が退院支援において「組織的サポート」を得られ難い状況にあることを示していると推測された。

6. 結論

「多職種チームケア機能」に関して、職種別・所属別分析の結果、地域包括ケアを見据えた退院支援にあたって、医療機関所属の看護職への組織的サポートや、社会福祉士・ケアマネがより課題達成機能やリーダーシップを果たせるような取り組みが求められる。